

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティ FM (FM あすも) 番組
放送日 : 平成 26 年 10 月 22 日 (水) 17 : 20 ~ 17 : 30 (塩竈一常 GET KING!!)
(再放送 : 10 月 26 日 (日) 9 : 10 ~ 9 : 20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 8 回放送 一関東部地域居宅介護支援事業所協議会 佐藤義雄 副会長

(聞き手 : FM あすも 塩竈一常)

塩竈 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは医療機関や介護施設の役割、利用方法を、医療、介護、福祉の関係者と私たち市民が共に理解協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

塩竈 先々週のこの時間なんですが、一関西部居宅介護支援事業所協議会会長の氏家さんにお越しいただきまして、この居宅介護支援事業所協議会、どのような活動をされているのかというお話を伺いました。主にケアマネジャー、介護支援をされる方の知識、技術、能力などの向上、また、地域の特性を生かした質の高いサービスを送るには一体どのようにしたら良いのか、関係機関の皆さんが集まって協議をする、こういった集まりなんですね。さあ、今日は一関東部地域居宅介護支援事業所協議会の佐藤義雄さんにお越しいただきましてお話をお伺いしました。前回はこの協議会の内容など、それから様々な事業所の情報などを伺ったんですが、今回は介護支援専門員ケアマネジャーに求められる資質であったりとか、それから今後の役割、さらに市民の皆さんとこのケアマネジャーの皆さん、どのように関わっていくべきか、こういったお話を伺っています。

塩竈 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日スタジオにお越しいただきましたのは、一関東部地域居宅介護支援事業所協議会副会長の佐藤義雄さんです。佐藤さん、どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤 はい、よろしくお願いいたします。

塩竈 佐藤さんがお仕事をされている場所というのは、大東町摺沢の方になるということなんですけれども、デイサービスとかされている所、それからグループホームのほうをされているということですね。

佐藤 はい。

塩竈 まずは、この一関東部地域居宅介護支援事業所協議会、こちらについてお話を伺っていきたいと思います。まずはこの東部地域の協議会になりますが、会員はどういう数字になるのでしょうか。

佐藤 今の会員数は 19 会員となっております。

塩竈 人数で言うと介護支援専門員の数というのは何人になるのでしょうか。

佐藤 そうですね。ただ今 65 名程の会員となっております。

塩竈 そうですか。この他協力する機関っていうのもいくつかあるそうですね。

佐藤 協力機関として、一関東部地域包括支援センターさんと高齢者総合相談センターしづたみさん、そして高齢者総合相談センターふじさわさんが、さらに、包括支援センターさんも協力会員ということで入っていただいています。

塩竈 設立の経緯について、佐藤さん教えてください。

ださい。

佐藤 以前から介護支援専門員が個々に集まって研修会を行ったりという機会はあったんですが、事業所単位での研修会の機会がなかったものですから、顔が見えるような活動をお互いにしたいということで、会を設立しました。

塩竈 多くの専門員の方々もそうですし、事業所を運営されてる方々っていうのも所所いらっしゃる訳ですけども、やはり集まることでいろいろそういった学び合ったりとか、切磋琢磨っていいですか、こういったとこで見つかるってことって結構多いんでしょうね。

佐藤 多いと思います。いろんな課題をお互いに抱えているのですが、1事業所の中では解決できなかったり、どうしていいかわからないということがやっぱりありますので、それらを事業所間で持ち合うってことも一つの大きな研修の場だなと思っています。

塩竈 この東部地域居宅介護支援事業所協議会なんですが、主な取り組みというか活動というと、こういった内容になるんでしょうか。

佐藤 研修会の開催とか、去年は会員のアンケート調査をやったり、会員の名簿を作成して医療機関などに配布する活動を行っております。

塩竈 さて先々週とそれから今週と、この介護支援というところについていろいろお話を伺っているんですが、中で出てくる言葉として介護支援専門員という言葉がありまして、今日はですね、佐藤さんに、この介護支援専門員の役割ですとか、今後はこういった役割を期待されているというところまで伺っていきたいと思います。まずはこの介護支援専門員が生まれた経緯ですね、ここから教えていただけますか。

佐藤 介護保険制度そのものは、平成12年4月から開始になっているわけですが、その中で、従来ですと行政で手続きを取るっていうことになっていたんですが、介護保険では介護支援専

門員という職種が、利用者様の意向を聞いてサービスに結び付けるといった活動をするようになりました。それ以来、ケアマネジャーっていう呼び名をされますが、そこで活動をしています。

塩竈 このケアマネジャーという名前、職業をよく聞くんですけども、平成12年に始まりましてもう既にだいぶ長い時は経っているわけなんですけど、人数でいうとどのくらいの方々なのかなっていうところを教えてくださいませんか。

佐藤 制度ができて14年経ちますが、去年で大体2万2千人程受検して合格者が出ております。14年ですから相当の人数の方がいるっていうことになると思いますが。

塩竈 さて佐藤さん、この介護支援専門員の役割について、では伺っていきたいと思います。

佐藤 大きくはケアマネジャーの仕事としましては、「相談業務」、「サービスの調整」、そして「連携」という3つが大きくあるかと思えます。

塩竈 まずは、相談っていうことですけども、これは住民の皆さん、市民の皆さんが、いよいよこれからこの介護っていうところに自分の家でもこうすることになった、こういったところをまず相談を受けてくださるということですか。

佐藤 そうです。在宅で生活を維持できるようにするためにはどうしたらいいかということも私たちが大事な役割の一つになっています。

塩竈 なるほど。まずは介護というところに直面した時に、一番最初にこう相談する役割の方ということですね。

佐藤 そうですね。窓口が私たちケアマネジャーなのかなと思っております。

塩竈 さらに、そこを調整していく役割っていうのがあるそうなんですけど、それはどういった

調整なんでしょうか。

佐藤 デイサービスを使いたいとか希望が出た場合に、そういう事業者との連絡調整を図ったりします。

塩竈 これはご本人であつたりとか家族でも、なかなか専門知識がないと難しいですので、であれば、こういった最初に話がありました、その相談の段階でいろんなその家庭の状況であつたりとか、いろんなものをこのケアマネジャーさんが把握した上で、コーディネートしていくということですね。そのコーディネートというふうになりますと、そのご本人とそれからご家族の方、それからサービス事業者の間もそうですけれども、さらに地域とのその連携というのにも必要になってくるのかなと思うんですが。

佐藤 今 14 年経ってみて、仕事をしながら思うのは、意外に地域で暮らすという時にはサービスだけではなくて、地域の皆さんとの連携が大きく必要になっております。

塩竈 地域というと、病院とか医療関係の皆さんも勿論ですし、それから行政とかこういったところもありますよね。

佐藤 1 人の方を見守っている方っていうの、大勢の方、民生委員さんであつたり、町内会長さんであつたり、自治会長さんであつたりとか、いろんな方が関わっていると思うんですが、その方々の連携も私たちやっぱり必要だなと思っております。

塩竈 このコーナーにもよくお越しいただくんですが、病院の先生ですとか、それから医療関係の方々というのは、介護との繋がりもとても大事だつていうふうにもおっしゃるんですね。

佐藤 私たちケアマネジャーとしましても、ご利用者様の健康状態とか病気の治療とかについて一番大きな関心事になります。そういう意味では病院とか医療機関の先生方と

か看護師の皆さんとの連携というのが大変必要だなと思っています。

塩竈 さて、様々な連携、それからご本人たちとのその相談であつたりとか、このコーディネートのお仕事をされているというのが介護支援専門員の役割っていうことが分かりました。今後その役割の中で、こういったところを強化していくべきだというふうに、佐藤さんお考えになるところいくつかあるかと思うんですけども、ぜひ教えてください。

佐藤 1 つは多職間、お医者さんであつたりとか、理学療法士さんであるとかいろんな方々との接点があります。そういう意味では多職間の連携を図る上では、私たちもそういう専門知識までとはいかなくても、そういう知識を私たち自身が持たなければならぬと思っています。その意味では研修会をやっていかなければならぬと思っています。

塩竈 なるほど。介護分野に立っている皆さんも、今お話に出てきましたその医療関係の話もそうですし、それから地域でいうと、その民生委員の方々が取り組んでいらっしゃる事とか、いろんな知識っていうのがある上で、ご本人たちの相談、調整にいろいろ当たっていくっていうことですね。なるほど。この他には何かありますか。

佐藤 もう一つは、私たち自身がそうなんですが、普段会話とかこうしているんですが、ご本人様がどういうふうに考えているのか、その引き出す力とかコミュニケーション能力というのが大事だつて思っております。

塩竈 より良いその介護であつたりとか、またこれから先のその人生っていうのを豊かにしていくためには、介護っていうところを、どのように自分が利用していくっていうのと、それから家族がどう考えているか、いろんなところっていうのを調整していく役割ですけれども、まずはそういったご自身が持っている希望であつたりとか、素直な気持ちを引き出す能

力っていいですかね。この他にはいかがでしょう。

佐藤 一番大事なのもしかすると信頼関係なのかなと思っています。ご利用者様との信頼関係であったり、ご家族様との信頼関係であったり、また、サービス事業者、病院の先生方と、とにかく信頼関係を作らなければ次には進めないなと思っています。

塩竈 さて佐藤さんには、そのケアマネジャーに今後求められる役割というお話を伺いました。話にあったとおり、平成 12 年に介護保険が始まった時点から 14 年経ちまして、その後仕事に就いていらっしゃる方の人数というのも大変増えました。さらに、この仕事を目指すという方もたいへん増えているということですが、佐藤さんから今後この仕事に就いてみたいと思う皆さんへの何かアドバイスはありますか。

佐藤 介護保険が始まった時は、花形と言われたのがケアマネジャーだったんですが、実際やってみると大変だっていうのもあります。ただ、逆にやりがいのある仕事でもありますので、ぜひケアマネジャーをやってみてみたいと思う方はこの仕事に就いていただきたいなあとと思います。今年 10 月 26 日に試験がありますので、ぜひ試験を受ける方は頑張ってくださいなと思います。また私たちの仲間として一緒に活動して欲しいなと思います。

塩竈 佐藤さん、これまでね、このケアマネジャーのお仕事っていうのに就くためのノウハウの本というのは、よくいろんな所に出ているとかパンフレットを見る機会っていうのがあるんですけども、そうなるとうどん知識が必要であったりとか、こういった仕事ですよっていう概要は分かるんですが、実際にその仕事に就いていらっしゃる皆さんが、今取り組んでらっしゃる中で感じるお気持ちであったりとか、それから、その今お話でありました、やりがいってところで、こういった言葉っていうのは、なかなか伝わってくるっていうのが、その冊子からは少なかったりすると思うんですが、

今日お聞きいただいた佐藤さんのですね、やりがいって言葉もそうですし、それから身近にそういったケアマネジャーの方々にいらっしゃるかと思しますので、こういった方と普段からお話をして、その仕事についての知識を身につけていくっていうのもとても大事なんだなと今日は伝わってきました。一関東部地域居宅介護支援事業所協議会から、今日は副会長の佐藤義雄さんにお越しいただきましてお話を伺いました。佐藤さんありがとうございました。

佐藤 ありがとうございました。

塩竈 一関では高齢化が進んでいます。住み慣れた地域で安心して暮らしていく、そのために、医療から介護への切れ目ないサービスを目指して様々な分野で取り組みが行われています。医療機関や介護施設、それぞれの役割や利用方法を私たちもしっかりと理解、協力する、これが大事ですね。地域医療体制の充実のため、私たちも積極的に関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。